

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600579		
法人名	有限会社 ベストライフ		
事業所名	グループホーム 東山の里 (さくら棟・なみき棟)		
所在地	〒830-0063 福岡県久留米市荒木町荒木1972番地18号 TEL0942-26-0011		
自己評価作成日	平成23年8月11日	評価結果確定日	平成23年09月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年08月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム東山の里は平成22年1月1日にオープンし1年半たちます。運営理念『福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します』とモットーの『心こそ大切なれ』を毎朝唱和し一日をスタートする。周りの環境がよく散歩コースには、10本以上の大きな桜の木があり春には花道を毎日散歩します。利用者様も職員も個性や特技を生かし、畑で野菜を作りGHで調理したり、家事活動を進んでされる97歳の方もおられます。地域の行事の運動会や祭りなどには積極的に参加し交流に努めている。避難訓練の日は事前に地区に回覧を回してもらい、地区の方が参加していただけるようにしている。子供会や保育園などと交流をもちたいと希望している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 東山の里」は、木造平屋建て2ユニットで、自然環境に恵まれた住宅地にある。家庭的な雰囲気のある玄関を通り、リビングルームに行くと、利用者と職員が、ゲームや手芸、歌等、楽しい一日が始まっている。周りの桜並木や草花を眺めながらの散歩は、利用者の心身の機能を活性化し、かかりつけ医の往診や利用者一人ひとりの状態に合わせたリハビリなど、自立支援に向けた取り組みは家族から高い評価を得ている。また、地域の運動会や祭り、清掃活動等に、利用者と職員が参加し、地域住民にホーム行事の案内を出し、協力を得て、交流の輪が広がっている。ホームの利用料に配慮し、誰でも入居しやすい環境を整え、利用者や家族から「ここで暮らせて良かった」と思われるグループホームを目指し、職員が一丸となって頑張っている「東山の里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を毎朝申し送り時に唱和し「心こそ大切なれ」をモットーに、勉強会で職員の資質向上に努めている。	平等の精神と、地域社会への貢献を謳った理念を掲げ、「心こそ大切なれ」をモットーに、毎朝、職員間で唱和し、各棟の決め事を掲示し、達成に向けた努力をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の行事等を確認し町内清掃や地区懇談会、子供会の廃品回収に参加する。日課のように散歩に出かけ町内の方と挨拶したり、会話を楽しませている。	地域の清掃、廃品回収、運動会、祭りなどに積極的に参加し、地域の方との交流を楽しんでいる。また、毎日のように出かける散歩の時には近所の方と挨拶を交わしたり、会話をするなど、日常的な交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加の民生委員、自治会長、自治区長さんに利用者様の日常生活状態を報告は出来ているが、その他の地域の方とは交流の機会が不足している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では多職種の方々から貴重な意見をいただいたり、町内の独居の方の様子などを知ることが出来たり、情報をもらい参考にしてしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム側職員がメンバーとなり、各委員から情報、意見、質問などが出され、ホーム運営に活かした取り組みを実践している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議時や、市の職員の指導を受けたり、相談を行なっている。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスなど受けている。また、行政の窓口に出向き、直接相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、両棟玄関の施錠をしていたが、利用者様もだいたい落ち着いた為、安全確認をして開錠している。玄関ドアを開けて外に出られるが、しばらくするとどられる方がいる、見守りは随時行なっている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、職員間で意見交換し、虐待防止も合わせ、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について職員全員が理解し、身体拘束のないケアの実践を目指している。又、玄関の鍵は利用者の安全を確認しながら開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については学習する機会を得ていない。虐待には身体的なことから、言葉使いや感情的な言葉が虐待になることをミーティング・勉強会で伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「人権」「日常生活自立支援について」「成年後見制度」を勉強会にて学び、日常生活自立支援を利用されている方がいる事を伝える。	現在、二人の方が制度を利用されている。制度の資料を整備し、勉強会を開き、利用者や家族が制度を活用するための申請などの橋渡しの支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は書面をもって十分に行い説明を受けた旨のサインをいただき理解・納得を図っている。契約後も面会時に不安や疑問点など尋ねるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会、運営推進会議の際に要望等を伺う機会を持っている。意見箱を設置している。外部の苦情相談窓口を掲示紹介している。	意見箱や苦情受付窓口を玄関に設置すると共に、家族の来訪時など、意見や要望を聴き取り、出来るだけ運営に反映させている。また、家族会を開催し、家族の悩みや心配事を聴き取り、支援できる体制を確立している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の夜勤者申し送りを合同で行い管理者又は施設長が立会い常に意見交換できる環境作りをしている。月1回、全体ミーティング、勉強会を行い職員の意見・要望などを聞き取り改善に努め、代表者へ報告し反映させている。	定期的に職員会議、カンファレンス、モニタリングを開き、職員が意見を言い易い雰囲気作りを努め、意見交換をしながら出された意見を運営に反映させる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを大切に、いつでも相談出来る体制にしており、職員が働きやすい環境作りを心かけている。条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・学歴・経験等関係なく採用している。職員一人ひとりの能力に合わせた勤務体制を考慮している。	職員の採用は、年齢、性別の制限はなく、人柄ややる気のある人を優先している。また、ホームで働く職員に対しては、個人的に話を聴くなどコミュニケーションをとりながら、職員が生き生きと働ける環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念にもある「人権」について学ぶ機会をもうけ、職員に利用者様の「人権」を尊重することの大切さを知ってもらう。よりいっそうの学習は必要である。	人権に関する資料を用意し、職員会議の中で利用者の人権に関する勉強会を実施し、利用者の尊厳を守るための取り組みをしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は定期的にホームを訪れ利用者や職員と面会している。職員の研修、講演会などの参加を事業所が積極的に援助できる体制を取っている。自主的に講習などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が各種研修に参加しやすい環境を整え、地域密着型サービスの生活圏域事業所交流会や各研修会で知り合った方々と交流や意見交換を行い、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを中心に本人・家族と何度も面会し話し合う機会を作っている。見学時に説明を行い納得していただいている。入所にサービス利用や入院などあればその関係者から情報収集を行なっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前のアセスメントなどにおいて十分に本人や家族の状況を聞き取り、希望などを踏まえて親身な対応を心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向をお聞きしながら、今、必要としている支援を見極め、フォーマルサービス、インフォーマルサービスを利用し支援に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や生活層に応じ、下調理や掃除・洗濯、日常生活における作業などできる限りお互い協力し合う関係であるようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・知人の面会、外出・外泊がいつでも出来る環境を整える。家族が参加できる行事や外出支援を計画している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や電話は快く対応を心がけ本人の想いを大切にしていける努力をしている。	ホームに、友人、知人が訪ねて来たり、電話で話したり、また、馴染みの場所に家族と出かける等、家族と協力しながら馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係においては棟にて差はあるものの、会話をしたり、いただき物をおすそわけしたり、家族の面会時お話をされたりするのを見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の様子を文面などでお聞きしたりすると、尋ねてもらったり、電話をかけてきてもらったりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と直接話しをしたり、散歩時に思いや困っていること、行きたい所などをお聞きしてその思いをスタッフが共有し、思いを具体化する努力をしている。	職員は、利用者が今何をしたいのか、どこに行きたいのか、何を食べたいのかなどを、時間をかけて聴き取り、家族と相談しながら、その思いが遂げられるように支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や生活の中で利用者本人・家族から話を聞き把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望や、有する力を把握し、今日やりたい事や、毎日する事を決めて取り組みを行なっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い利用者のニーズに即した介護が出来るように勤めている。	カンファレンスに家族が参加し、意見や要望を聴き、関係者で意見を出し合いながら介護計画を作成している。また、状態に変化があった場合は、その都度関係者で話し合い、家族と連絡をとりながら、介護計画の見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録以外に、利用者の特別な様子、ケア方針、気づき、工夫等を支援経過に記録し、関わる職員が共通したケアが出来るように介護計画を作成している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持改善の為に本人・家族が希望される利用者様には医療リハビリを利用していただく。家族の支援が困難な場合、本人の希望により買い物に同行したり、買い物支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで歌を唄いに来て頂いている。運営推進会議などで情報を収集し、地域の行事に参加するよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、ご家族さまの希望に応じ、当施設への往診(1回/W)あるいは他の病院への受診で適切な医療を受けられるように図っている。随時受診介助を行なっている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を支援している。また、緊急時に備え、24時間の医療連携体制を確立し、利用者が安心してここで暮らせるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職・看護職情報交換を密にし、利用者様が安心できるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご家族様等と連絡を行い、入院時、入院中、退院の相互の関係が円滑となる様に取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の方針として看護体制を整え、勉強会等により介護技術の向上に努め、見取り介護が出来る体制を整える。	看取りの経験はないが、利用者の重度化や終末期に備え、看取りの指針を用意している。家族や主治医と常に連絡を取りながら方針を共有し、支援体制の確立を目指している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常備し、いつでも見れる状態にしている。避難訓練時に応急手当での講習を取り入れ学びの場をつくる。定期的に行なえるよう計画をたてていく事が必要。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回開催し全職員が参加できるようにしている。地域の方にも回覧でお知らせし参加のよびかけを行なっている。火災通報装置の連絡先に職員と地域の方も登録していただき協力体制を築いている。	昼夜を想定した避難訓練を消防署の指導のもと年2回実施している。また、避難訓練のお知らせを地域に配り、地域住民の協力と参加を得て、非常時の連携が確立されている。	非常災害時、電気、水道、ガス等が使用できない場合を想定して、非常災害用具、非常食、飲料水などの備蓄の準備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「心こそ大切なれ」をモットーに利用者様と接するよう日頃から心がけている。接遇についてはミーティングや勉強会、研修会に参加し職員が学ぶ機会を得て実践出来るよう努めている。	「心こそ大切なれ」というスローガンをもとに、職員は利用者のプライドを傷つけないための配慮や、その尊厳を守る優しい言葉かけや見守りを実践している。また、個人ファイルなどは、外から見えない戸棚に保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を出来るだけ聞き取るように心がけ、出来る範囲で自己決定できるよう配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添えていないが、起床・日中の過ごし方・就寝・食事等いつもと違う本人の要望に対して柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に希望をお聞きしたり、アドバイスしたりして支援している。行事や誕生日などは希望により化粧などしていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下調理の手伝いをしていたり、職員が利用者様にアドバイスを頂き、味付けなどに工夫を凝らしている。	利用者の楽しみである食事を充実したものにするために、利用者と職員と一緒にジャガイモの皮むきやゴボウのさがきなどの下拵えや盛り付けをしている。同じテーブルで会話をしながら笑い声のある楽しい食事風景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックし不足時は形態を変えたり、味付けを変えて嗜好に合わせている。牛乳を配達してもらったり、ヤクルト販売が定期的に訪問している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、本人に合ったブラシを使用してもらう。本人、家族の希望にて、訪問歯科を利用し治療やケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートにて24時間排泄管理をしている。トイレ誘導や声かけを行い本人の希望や排泄パターンに沿って介助している。	職員は、排泄チェックシートで利用者の排泄パターンを把握し、優しい声かけや誘導で排泄の自立に向けた支援をしている。実際に紙パンツから布パンツへ変わった方、自分でトイレに行けるようになった利用者がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、起床後の水分補給や、散歩・体操・マッサージを行う。本人希望にて個別にヤクルト・ヨーグルト・牛乳の購入をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は会社の方針にて力を入れている。毎日どちらかで入浴出来る体制を取っていて本人の希望で入っていただいている。	週3回入浴日を決めているが、利用者の希望や体調に合わせ、その都度、臨機応変に対応している。また、入浴拒否者には、職員が交代して声かけしたり、気分転換をしながらお誘いするなど工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝かせきりにせずメリハリをつけ、食事・おやつ・レクリエーション等はリビングに声かけ誘導する。体調により随時休養してもらう時間をとっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各棟に利用者様の処方箋控えを置き確認出来る工夫をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や、力に応じて洗濯たたみや、芋・玉ねぎ・人参の皮むきなど下調理や、塗り絵・計算ドリル・工作・縫い物などをしていただき笑顔、笑い声がある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出希望があれば外出していただく。ホームや地域の方との外出は課題となる。	ホーム周辺に桜並木や畑など自然が豊かで、利用者は毎日のように散歩を楽しんでいる。利用者の重度化が進み、車椅子利用の方が増え、買い物、ドライブ、外食などを支援する機会が減ってきている。	利用者の重度化に備え、外出支援のためのボランティアを募り、利用者の生き生きとした暮らしを支援していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はないが希望があればいつでも対応できる。個別の受診時に買い物やコーヒーなど飲みたい希望があれば支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が携帯電話を使用したり、連絡を取りたいと希望される時はすぐ対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間には生花や工作など利用者と職員が一緒に創作したり、飾り付けを季節ごとに工夫を凝らし行なっている。	桜並木に隣接した広い敷地内に、バリアフリーを完備した2ユニットのグループホームである。リビングから続く広いウッドデッキに出て、四季折々の自然を五感で感じ取る暮らしは、穏やかで、居心地のよいものである。また、ホーム内のあちこちに、野の花が飾られ、ゴーヤの緑のカーテンも見事である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での工夫はないが、事務所が心地よかつたりして来られる利用者様にはソファに座っていただいたり、隣の棟に行かれて、しばらく過ごされる方もおられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から使い慣れた家具・置物・仏壇など馴染みの物を持参していただくなどしている。	居室は、利用者や家族の希望を取り入れ、出来るだけ馴染みのものを持ち込んでもらい、自宅と違和感のない雰囲気、居心地良く暮らして頂けるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、表示、物品の配置を工夫し利用しやすいようにしている。		